日本の野球とアメリカ合衆国のベースボール
～ドラフト制度の観点からの比較～

不破強（指導教員：守屋志保　准教授）

1. 背景・目的

WBC の第 1,2 回大会を連覇した事が日本の野球がベースボールより優れているのではないかという気持ちを生んだ。世界最高峰のプロ野球リーグの MLB で活躍する日本人選手が育った場所は、日本球界であり、これから行われる国際大会でも代表チームが結果を残し続ける事で野球の素晴らしさを発信できる場が増えると考えた。

本稿では、プロ野球の世界に入る 9 割以上の選手が通るドラフトに焦点を絞り、日本の NPB とアメリカ合衆国の MLB におけるドラフト制度の違いを考察し、これからの日本の野球界にとってより良い方向性を検討する事を目的とした。

2. 方法

本学教授の小林至先生,広岡勲先生と NPB でも活躍した元 MLB 選手にインタビュー調査を依頼した。

小林先生と広岡先生には、①どういった経緯で国際大会に現役 MLB 選手が参加を見送っているのか、②今後の日本野球界のドラフト制度についての改善点、③日本野球界が発展していく上で問題点と改善点、④日米両国の野球とベースボールの魅力や素晴らしさの 4 点を伺い、元 MLB 選手には、(1) 日米両国でプレーした経験の中での違い、(2) チームによって選手のモチベーションが違うか、(3) 日本人選手とアメリカ合衆国の選手でも違いはあるのかの 3 点を伺った。

アメリカ合衆国から見た日本の野球という観点を合わせる事でより大きく日本の野球界が発展していく上でのヒントを導く事が出来ると考えた。

3. 結果

小林先生と広岡先生にインタビュー調査をした結果、MLB で活躍している選手が国際大会に参加する事は非常にハードルが高い事がわかった。野球という競技が世界的に更にメジャーな競技にならなければ「真の国際大会」は開催する事ができない。野球の人気が低迷した事で TV 中継が減少している現状を打破しなければならない。MLB を参考に FA 制度とドラフト制度を絡める事で更なるドラフト会議への高い注目と戦力均衡によりレギュラーシーズンが熾烈になり人気の回復に繋がると考えた。子供達が野球というスポーツを楽しめる環境づくりを進めなければいけない事と、娯楽としてファンが野球を観ているのかという点が、日本野球界が発展していく上で必要だとわかった。

元 MLB 選手にインタビュー調査をした結果、選手は様々な動機で競技をし、これは選手によって異なる事は仕方がなく、よりチームの事を考えてプレーをする選手程、好成績を収め、強いチームに求められ、高い報酬を得る事が出来る。より高いレベルを求めるなら、チームを優先に考える事が重要だという事がわかった。

4. 考察

日本の野球とアメリカ合衆国のベースボールは、同じスポーツだが異なる発展の道を辿り、日本の野球が今後発展していくには考え方などの根本を変化させる必要がある。

NPB は、MLB を参考にする事は重要だが、お手本にするべきではない。文化や歴史の違いによって生まれた根本的なスポーツに対する考え方が影響し、日本の野球として独自の発展をしてきているからだ。

NPB の各チームは、プロチームとして活動しており、安定したチーム成績を残す事が重要である。チーム運営上維持費等様々な経費がかかるのだが、支出を抑える工夫をドラフト制度などで行っているが、更に大きな収入を得る為の工夫が日本野球界には足りないと考え、MLB を参考にする事が必要だ。

ファンにお金と時間を投資してもらう事はもちろんだが、チームを保有するオーナーにも、野球界の発展の為にはどんな投資も惜しまないと思わせるような仕組みが必要である。その 1 つが MLB が掲げる「戦力均衡」である。資金力が乏しいチームにもチャンスが巡ってくるという意味での「戦力均衡」は、FA 制度で選手を獲得したチームと放出したチームになんらかの補償と損失がなければいけない。補償の面では、ドラフト会議での高い順位での指名権を補償とする事でチームの戦力強化という点で非常にプラスになると考えた。損失の面では、一定のランク付けを成績によって設ける事で、FA 制度を利用して選手を獲得したチームに対して、選手のランクに応じてドラフトの指名権を損失するという措置を設ける。ドラフトで「戦力均衡」を進める仕組みを追加する事によって長期的な人気を獲得できる可能性がある。

インタビュー調査の結果、全参加国が本気で世界一をかけた国際大会を開催する事は限りなく不可能に近いという現実が判明した。少しでも不可能を可能に変える為に、独自に発展してきた日本の野球界の良さを生かし、更なる発展を日本野球界が遂げなければならない。